q-Nexus (UEC-SHIP)
量子科学研究センター（共催）
学術変革領域 A 「π 分子複雑性」（共催）
融合ワークショップ

開催日時：2026 年 12 月 2 日（水） 13:30–19:00
開催方法：対面 ＋Zoom のハイブリッド
開催場所：電気通信大学 東 11 号館（e-Nexus 棟）1F
量子科学技術と化学分野の融合研究が欧米および日本において活発になってきている。分子キラリティーや光励起状態のスピン制御は量子通信技術を含めた複雑な量子状態制御においても重要となってきている。今回は、学内外の若手研究者および研究者グループの学生による分子キラリティーや光励起状態スピンを制御およびその共創研究を考えるワークショップを開催します。若手研究者の自由な発想に基づく新たな共創研究が、秀逸且つ突き抜けた量子制御技術の育成には必要であると考え、講演会後の共創ディスカッションでは対面参加の研究者同士や研究者と学生との間で、学生のポスター発表も含む形で開催します。

プログラム
開会挨拶・趣旨説明
13:30–13:35 平田 修造 博士（電気通信大学 情報理工学研究科 准教授）
話題提供（13:35–16:55）
13:35–14:05 野上 純太郎 博士（東京科学大学 物質理工学院 助教）
「高度にねじれたメビウス型π共役分子の不斉構築とキラル光機能」
14:05–14:35 儘田 正史 博士（京都大学 理学研究科 准教授）
「励起状態制御による超狭帯域発光の実現」
14:35–15:05 平田 修造 博士（電気通信大学 情報理工学研究科 准教授）
「長波長域における π 分子の励起状態スピン変換制御」
休憩
15:25–15:55 重光 孟 博士（物質・材料研究機構 主任研究員）
「π 分子集合が拓く多彩な励起状態と光機能」
15:55–16:25 五月女 光 博士（電気通信大学 情報理工学域 准教授）
「π 分子システムの中を励起子はどのように移動するのか？」
16:25–16:55 須賀 健介 博士（大阪大学 理学研究科 助教）
「π 分子のための探索空間設計と励起状態計算との接続」
休憩
共創 discussion（17:00–19:00）（学生によるポスター研究紹介を含むディスカッション含む）

実行委員: 電気通信大学 大学院情報理学研究科 平田 修造 E-mail:shuzohirata@uec.ac.jp